

研究ノート

新設看護学部における看護実践能力育成のための 看護技術項目の検討

Revising the Curriculum of Nursing Skills in the New Nursing Department Making Skills Useful in Practice

桶河 華代^{1)*}, 流郷 千幸¹⁾, 上野 範子¹⁾, 間 文彦¹⁾, 小倉 之子¹⁾
Kayo Okegawa, Chiyuki Ryugo, Noriko Ueno, Fumihiko Hazama, Yukiko Ogura

大籠 広恵¹⁾, 井上 美代江¹⁾, 和田 はるか¹⁾, 筒井 裕子¹⁾
Hiroe Ohgomori, Miyoe Inoue, Haruka Wada, Sachiko Tsutsui

キーワード 看護技術, 看護実践能力

Key words nursing skills, practical nursing ability

抄録

背景 高齢化社会や医療の高度化の到来から、看護学生の看護実践能力の強化の必要性が重要課題となっている。

目的 新設看護学部において看護実践能力が高い学生を育成するために必要と考えられる看護技術項目を明らかにすることを目的とした。

方法 各看護学領域代表者で技術項目検討委員会をもち、本学部の教育理念に従って、既存文献を参考にしながら、項目を追加修正し、各看護学領域が講義・演習・実習のどこで学習するかを確認した。

結果 学生の看護実践能力を育成する為の看護技術項目は19項目の大項目, 131の中項目, 160の小項目と整理し、看護技術項目のシートを作成した。

結論 作成したシートは、各看護学領域で学習する内容を講義の教材として活用し、学生・教員・実習の指導者の3者間で、個々の学生の看護技術の習得に有効であると考えられる。またそれは、学生の看護実践能力の強化へと期待できる。

Abstract

Background With the aging of society and the advances in medical care technologies, it is increasingly important and necessary for nursing students to be able to use their nursing knowledge and skills in a practical setting. Educational institutions are therefore urged to provide the students with such training.

Purpose The purpose of this paper is to clarify what skills are actually necessary and useful for students to become effective in their practice as nurses, and what training should be given at the new nursing department in order to enhance the practical nursing skills of students.

Methods First, scholars and representatives of nursing-related fields formed a committee where skills required for achieving the purpose stated above were redefined in accordance with the university's educational objectives. In revising the existing skills items, published information was also used as a reference. How each of the skills is learned, either in lectures, classroom training, or practical training, was confirmed by the committee.

Results The nursing skills identified by the committee were classified into 19 skills of major importance, 131 skills of medium importance and 160 skills of less importance. The committee summarized them as a list of nursing skills.

Conclusion The list can be used as teaching materials in the class, and can be used not only by teachers and advisors in the training but also by students. Students would refer to the list when learning nursing skills. Such use of the list may reinforce students' ability to apply the obtained skills in their nursing performance.

I. 緒言

1. 研究の背景

大学における看護系人材の養成は、昭和27年の

看護系大学の誕生から、常に社会の医療ニーズに対応できる質の高い看護師を養成することを目標としてきた。平成4年度の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行等を契機とした看護

¹⁾聖泉大学 看護学部 School of Nursing, Seisen University

*E-mail: okegaw-k@seisen.ac.jp

系大学は、平成3年3校から平成22年188校へと急激な増加を示し、平成22年の看護師国家試験合格者に占める学士課程修了者の割合は2割を超える（文部科学省、2010）。一方で、高齢化社会の到来や医療の高度化、実習における侵襲を伴う看護行為の制約等、社会や保健医療を取り巻く環境の変化と学生の多様化に伴って、臨地実習の見直しや教育内容の工夫の必要性等の課題が指摘されている（戸田ら、2010）。

文部科学省（2002）は「看護教育の在り方に関する検討会」の報告書として「大学における実践能力の育成の充実に向けて」を提示した。その報告書の中では、看護学の教育内容のコアを構成する重要な要素として看護実践を支える技術学習項目が明記され、卒業時目標とした看護実践能力の構成と卒業時到達度について述べている。また、厚生労働省（2007）は「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」で「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（案）」を示し、平成21年4月より看護基礎教育の改正カリキュラムの導入が開始された。改正カリキュラムでは、学生の看護実践能力の強化が重要課題とされ、看護師の教育課程で修得すべき技術項目が精選され、卒業時の到達目標が明確にされた。

このような情勢のなか、地域の要請を受けて、平成23年度看護学部が新設された。看護学部新設

時に教育内容・方法、実施体制の方向性を示すことは単なる教育内容の向上の観点ばかりでなく、各教員の日常活動並びに組織活動の在り方を示す上で重要な役割を提供するものである。また、卒業時到達目標を達成するために必要な教育内容は、各大学が教育目標や採用する教育手法、学生の学習準備状況等にあわせて主体的に設定していくことが期待されている。今回、新設看護学部において看護実践能力の高い学生を育成するために必要と考えられる看護技術項目を検討したので報告する。

2. 研究目的

新設看護学部において看護実践能力の高い学生を育成するために必要と考えられる看護技術項目を明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

基礎看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児・母性看護学、地域看護学、在宅看護学の各看護領域代表者9名で技術項目検討委員会を立ち上げ、以下のように検討会を重ね、学生の看護実践能力育成に向けた本学部独自の看護技術項目を完成させた。

資料は、「看護基礎技術の学習項目」（文部科学

平成23年 開催日	検 討 事 項
第1回5月	本学部の教育理念と卒業時の学士課程で育成される看護実践能力の育成に向けて、どのような看護技術項目を学習することが必要か、到達目標をどのように設定する必要があるかを検討した。そのための資料として、以前勤務していた大学や近隣の大学で使用している看護技術項目や近年の看護学教育の動向の文献を次回までに収集することとした。
第2回6月	収集した看護技術項目や看護実践能力の到達目標に関する資料を整理し、どの資料をもとに本学部独自の項目にするかを検討した。主になる資料は「看護基礎技術の学習項目」とし、「看護技術項目」と「看護実践能力の到達目標」は、1つにまとめられるものではないということから、別々に考えていくこととした。
第3回7月	「看護実践能力の到達目標」は、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を使用し、「看護技術項目」については、「看護基礎技術の学習項目」を中心に「看護基礎教育における看護技術および認知領域面の教育のあり方に関する研究」と「看護教育の技術項目と卒業時の到達度(案)」を参考に、卒業後に看護場面で必要と思われる看護技術項目を全て出し合い、本学科独自の項目を検討した。
第4回8月	本学独自の看護技術項目は、19の大項目、131の中項目、160の小項目に整理した。そして、各看護領域がその内容において主に学習する項目の講義、演習、実習に○、その内容において学習することが望ましい項目に△を印し、項目は適しているか、もれはないか、不要なものはないか確認した。その際に、小項目の技術項目の中に、抽象的な概念が含まれた表現になっている部分については、各領域で教授する内容を具体的に検討し、共通理解をするよう努めた。
第5回10月	完成した技術項目を再検討し、項目の内容の精選化、妥当性確保のために作成中・完成後に看護専門領域の教員全員で確認作業を行った。

省, 2002), 「看護教育の技術項目と卒業時の到達度(案)」(厚生労働省, 2007), 「看護基礎教育における看護技術および認知領域面の教育のあり方に関する研究」(田島ら, 2003), 「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標—教育内容と学習成果—」(文部科学省, 2011), 「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標(案)」(厚生労働省, 2011) を参考にした。

Ⅲ. 結果および考察

まず, 看護技術項目の大項目を分類した。「看護基礎技術の学習項目」の13項目(文部科学省, 2002)である【環境調整技術】、【食事援助技術】、【排泄援助技術】、【活動・休息援助技術】、【清潔・衣生活援助】、【呼吸・循環を整える】、【創傷管理技術】、【与薬の技術】、【救命救急処置技術】、【症状・生体機能管理技術】、【感染予防の技術】、【安全管理の技術】、【安楽確保の技術】を中心に考え、「看護教育の技術項目と卒業時の到達度(案)」(厚生労働省, 2007)と「看護基礎教育における看護技術および認知領域面の教育のあり方に関する研究(田島ら, 2003)」から, 本学部が目指す看護職の特性が得られるように【入院退院時に関わる対応技術】、【人の育成過程に関わる援助技術】、【人の死の過程に関わる援助技術】、【周産期に伴う援助技術】、【健康生活維持に関する課題への対応技術】の5つを大項目として追加することになった。また, 【症状・生体機能管理技術】の項目に関しては, 看護師の業である"療養上の世話"につながる【症状・生体機能管理(観察)技術】と"診療の補助"につながる【生体機能管理(援助)技術】の2つに分けて, それぞれを独立した大項目とした。最終的に本学部独自の看護技術項目は, 19の大項目, 131の中項目, 160の小項目と設定した。また, 学生が必要な技術を習得しやすいように順序性を考慮し, 主にどの看護専門領域の講義・演習・実習で学習するかを○, 学習することが望ましい領域に△で明示した(表1)。「看護基礎技術の学習項目」の13項目(文部科学省, 2002)に追加と変更した項目を本学部独自の大項目に従って説明する。なお, 以下に示す【 】は大項目, < >は中項目, < >は小項目とする。

1. 【環境調整技術】

【環境調整技術】については, <<リネン交換>>を<<シーツ交換>>に変更した。<<療養生活環境調整>>には, <安全性>, <快適性>, <<ベッドメイキング>>には, <一般のベッド(児)>, <手術後のベッドの準備>, <<シーツ交換>>には, <ドレーン類が留置されている患者>, <点滴ラインや中心静脈ラインがある患者>, <活動制限がある患者>, <クリーンルーム入室中の患者>という小項目をそれぞれに設け, 急性期や発達年齢の特徴を踏まえ, 安全性や快適性をアセスメントできるように考えた。

2. 【症状・生体機能管理(観察)技術】

【症状・生体機能管理(観察)技術】については, 看護師が状態観察から日常生活援助を行う際に必要とする技術として, <<呼吸音聴取>>, <<腸蠕動音聴取>>, <<腹囲測定>>, <<ペースメーカー装着中の観察>>を追加した。大項目に(観察)と加えることで, <<症状・病態の観察>>という中項目は省いた。そして, <<経皮的・侵襲的検査時の援助(心電図モニタ・パルスオキシメータ)>>を<<モニタ装着中の患者(児)の観察>>に変更して, <心電図モニタ>, <経皮的動脈血酸素飽和度(Spo2)>の小項目とした。<<バイタルサインの測定>>には, <体温・脈拍・呼吸・意識・心音・CVP>, <<身体計測>>には, <体重・身長等>をそれぞれの年齢の特徴や発達を捉える目的で, 新生児・乳幼児・学童・成人・老年期に分けて小項目として設けた。

3. 【食事援助技術】

【食事援助技術】については, <<配膳>>, <<中心静脈栄養>>, <<誤嚥予防>>を追加し, <<体液・電解質バランスの査定>>を<<水分バランスの査定>>と変更した。そして, <<食事介助>>には, <臥床患者>, <片麻痺のある患者>, <嚥下障害がある患者>, <<食生活支援>>には, <栄養指導>, <食事の工夫>, <家族指導>という小項目をそれぞれに設けた。近年, 言語療法士による摂食・嚥下の評価を受けるようになり, 食事援助に関するアセスメント, 方法, 実施に向けた決定を看護師は40%しかできていないという報告(奥田, 2011)もあり, 患者の退院後の生活を視野に入れた工夫や指導する知識が必要であると考えた。

4. 【排泄援助技術】

【排泄援助技術】については, <<自然排尿・排

便援助」には、看護の対象となる高齢者が増え、排泄における自立を促す援助の必要性が高まることから、〈トイレ〉・〈身障者トイレ〉〈ポータブルトイレ〉という小項目を新たに設定した。

5. 【活動・休息援助技術】

【活動・休息援助技術】については、〈適切な固定（拘束・抑制等）〉、〈補装具装着〉、〈下肢運動（血栓予防）〉、〈アクティビティ（高齢者施設での心身の活性化）〉、〈神経麻痺の観察と予防〉を追加した。また、〈歩行介助〉は、〈歩行介助〉、〈杖歩行介助〉、〈歩行器介助〉の3つに分けて、〈移動の介助〉は、〈移乗・移動の介助〉に変更した。そして、〈杖歩行介助〉には、〈松葉杖〉、〈ステッキ〉、〈移乗・移動の介助〉には、〈ベッド⇄車椅子〉、〈車椅子、ベッド⇄便座、ポータブル便座〉、〈移送〉には、〈車椅子〉、〈ストレッチャー〉、〈体位変換〉には、〈点滴ライン・ドレイン類が留置されている患者（児）〉、〈麻痺がある患者（児）〉、〈痛みがある患者（児）〉、〈呼吸困難がある患者（児）〉、〈活動制限がある患者（児）〉という小項目を設け、小児から高齢者まであらゆる年齢の患者が急性期・慢性期において自立し、活動する援助を想定した。ここで表現するアクティビティは、高齢者施設での心身の活性化を促す援助であり、主に老年看護領域で学習するとした。

6. 【清潔・衣生活援助技術】

【清潔・衣生活援助技術】については、〈シャワー浴介助〉、〈特殊な状況にある患者（児）の入浴・シャワー浴介助〉、〈機械浴介助〉を追加した。また、〈陰部ケア〉は、〈陰部ケア（洗浄）〉、〈整容〉は、〈整容（洗面・歯磨き・結髪・ひげ剃り・爪切り）〉と具体的な内容を付け加えた。〈清拭〉は、〈全身清拭〉と〈部分清拭〉の2つにした。そして、〈部分浴〉には、〈手浴〉、〈足浴〉、〈臀部浴〉、〈洗髪〉には、〈仰臥位〉、〈座位〉、〈口腔ケア〉には、〈安静（臥床）を要する患者（児）〉、〈意識状態が不良な患者（児）〉、〈嚥下困難がある患者（児）〉、〈絶食中の患者（児）〉、〈気管切開や挿管している患者（児）〉、〈義歯の手入れ〉、〈寝衣交換など衣生活支援〉には、〈ドレイン類が留置されている患者（児）〉、〈活動制限がある患者（児）〉という小項目を設け、様々な看護場面の清潔ケア・寝衣交換において、患者のニー

ズに応じた援助の自己決定ができるように想定した。

7. 【安楽確保の技術】

【安楽確保の技術】については、近年、精神疾患の増加や悪性新生物の死亡割合が30.1%（厚生労働省、2008）を占めていることから、〈補完・代替療法〉を追加した。また、〈電褥法等身体安楽促進ケア〉は、〈温電褥法〉と〈冷電褥法〉の2つに分けて、〈リラクゼーション〉、〈指圧〉、〈マッサージ〉の3つの項目は、〈リラクゼーション〉の1つの中項目として、〈指圧〉、〈マッサージ〉を小項目にした。そして、〈温電褥法〉には、〈温枕〉、〈電気毛布・電気アンカ〉、〈特殊な温電褥法〉、〈熱傷予防〉、〈冷電褥法〉には、〈氷枕〉、〈氷頸〉、〈氷嚢〉、〈特殊な冷電褥法〉、〈凍傷予防〉という小項目を設けた。

8. 【呼吸・循環を整える技術】

【呼吸・循環を整える技術】については、〈スクイーピング〉、〈呼吸訓練〉を追加した。〈気道内加湿法〉は、〈ネブライザー〉に変更した。そして、〈酸素吸入〉には、〈酸素マスク〉、〈インスピロン〉、〈酸素カニューラ〉、〈酸素テント〉、〈人工呼吸器〉、〈酸素ポンベの操作〉、〈在宅酸素療法（HOT）〉、〈吸引〉には、〈口腔内・鼻腔〉、〈気管切開口〉、〈ネブライザー〉には、〈喉頭ネブライザー〉、〈超音波ネブライザー〉の小項目を設けた。生活習慣病として慢性期疾患が増えている現在において、回復まで時間がかかり、完治しにくく、在宅においてもこれらの医療的な管理が必要な療養者が増えていることから呼吸・循環を整える援助技術が必要であることを想定し、それぞれの小項目を設定した。

9. 【創傷管理技術】

【創傷管理技術】については、〈PEGを用いた経腸栄養〉、〈中心静脈カテーテルの挿入部〉、〈気管切開口〉、〈ドレインの種類とドレナージ方法〉を追加した。そして、〈ドレインの種類とドレナージ方法〉には、〈短い開放式ドレイン〉、〈閉鎖式ドレイン〉、〈胸腔ドレインとディスポーザブル低圧持続吸引器〉、〈頭蓋内圧ドレナージ〉の小項目を設けた。創傷管理において、手術創や外傷だけでなく様々な感染経路があることを理解し、創傷管理能力を養うことを目的とした。

10. 【生体機能管理（援助）技術】

【生体機能管理（援助）技術】については、《検体の採取と扱い方》に＜採便・便検査＞、＜喀痰＞の小項目を追加し、＜血糖測定＞は、《検査時の援助》の小項目に変更した。《経皮的・侵襲的検査時の援助》は、《検査時の援助》に変更して、小項目に＜骨髄穿刺＞、＜腹腔穿刺＞、＜X線撮影＞、＜血管造影＞、＜CT＞、＜MRI＞という小項目を追加した。検査は、病態把握に最も重要であり、患者が安心して検査を受けるためにも副作用の観察を含めた知識や技術が必要であることから整理し、追加した。

11. 【与薬の技術】

【与薬の技術】については、《薬理作用》、《薬物療法》、《経口・外用薬の与薬方法》、《皮下・皮内・筋肉内注射の方法》の中項目を《与薬の方法（説明・指導を含む）》という1つの中項目とし、＜経口薬（舌下錠を含む）＞、＜軟膏薬＞、＜スプレー薬＞、＜貼付薬＞、＜点眼薬＞、＜点鼻薬＞、＜点耳薬＞、＜吸入薬＞、＜座薬＞、＜皮下注射＞、＜皮内注射＞、＜筋肉内注射＞、＜静脈内注射＞の小項目とした。また、《点滴静脈内注射の管理》は、《点滴静脈内注射の管理（輸液ポンプも含む）》と変更した。そして、《硬膜外注射の管理》、《自己注射の方法と指導》、《抗生物質を投与されている患者の観察》、《薬品管理》を追加した。《薬品管理》には、＜水薬・坐薬＞、＜麻薬＞、＜劇薬＞、＜毒薬＞、＜血液製剤＞、＜向精神薬＞、＜特殊薬（抗がん剤等）＞の小項目を設けた。薬が有効かつ安全に使われるためには、薬の使用に関する基本的な知識をしっかりと身につけることが必要で、正しい服用方法が薬の効果を高め、かつ副作用を減らすことから、それぞれ中項目として設定した。

12. 【感染予防の技術】

【感染予防の技術】については、《針刺し事故防止の対策》、《針刺し事故後の感染防止》、《無菌室（クリーンルーム）の清潔操作》、《隔離》を追加した。大学における学生の針刺し事故防止の実施率が5.3%であったとの報告（楢柑富美子ら、2009）が、少ないことを考慮し、自分を守る技術・患者を守る技術が必要であると考えた。

13. 【救命救急処置技術】

【救命救急処置技術】については、《救急法》、

《意識レベル把握》、《気道確保》、《人工呼吸》、《救命救急技術》、《閉鎖式心マッサージ》、《止血》の中項目をまとめて、《一次救命処置》と《二次的救命処置》の2つの中項目にして、それぞれ（A）、（B）、（C）という小項目を設けた。心肺蘇生（AEDを含む）やけがの手当の方法を習得する一般市民の講習会が事業所や地域で行われており、本学部においては、医療者としての一次救命・二次救命の知識と技術を身につけておく必要があると考えた。

14. 【安全管理の技術】

【安全管理の技術】については、《療養生活の安全確保》の中項目は、【環境調整技術】へ変更した。《転倒・転落・外傷予防》、《医療事故予防》、《リスクマネジメント》の中項目は、《インシデント・アクシデント（転倒・転落・外傷予防等）に関わる対応》、《問題行動（暴言・暴力・虐待等）に関わる対応》、《災害（火災・地震等）に関わる対応》に変更した。学生が起こしやすい医療事故を具体的に表し、その対応を理解するために変更した。また、阪神・淡路大震災や東北・関東大震災等により、災害時に看護の必要性が高まっており、本学部においても安全管理の技術として修得する必要があると考えた。

15. 【入院退院時に関わる対応技術】

【入院退院時に関わる対応技術】については、医療費の高騰から在院日数の短縮や慢性疾患・高齢者の増加で介護保険を利用しての在宅療養患者が増えている。そのため、社会環境の変化や社会資源の知識を持ち、入院に関わる技術が必要であると考え《入院のあたりの患者・家族への対応》、《入院時オリエンテーション》、《退院後の生活指導》、《在宅での看護・介護指導》、《社会資源の活用と調整》の中項目を設定した。

16. 【人の誕生・育成過程に関わる援助技術】

【人の誕生・育成過程に関わる援助技術】については、《受胎調整指導》、《新生児家庭訪問指導》、《妊婦計測》、《乳房マッサージ》、《悪露交換》、《授乳・調整指導》、《離乳食の援助》、《愛着形成への援助》、《発達課題の取り組みへの援助》、《障害（身体・発達障害等）を持つ子どもへの援助》、《基本的生活習慣形成》、《小児期の遊びの援助》、《抱っこ》、《親の役割獲得への援助》の中項目とした。少子高齢化が深刻な問題のなかで、出産はほとんどが病院で行

われている。医療者として、女性のライフサイクルに関わる支援者としての役割を学び、女性を中心とした人々の健康保持増進や予防に必要な看護をおこなうための知識や技術を習得する必要があるため追加した。

17. 【人の死の過程に関わる援助技術】

【人の死の過程に関わる援助技術】については、団塊の世代の高齢化による死亡数が増えることに対し、医療者として死に直面することは避けられない。看護者として、死に直面した恐怖からなるべく早く抜け出す方法の習得と家族に教育する知識や技術が必要であると考え、《死を迎える人への援助》、《臨終を迎える人の援助》、《死後の遺体への対応》の中項目とした。

18. 【周産期に伴う援助技術】

【周産期に伴う援助技術】については、《診察技術》、《分娩介助技術》、《異常分娩時の補助》、《保健指導》、《記録・報告》、《保育器》の中項目とした。日本では、産科医や助産師の不足など、周産期医療の見直しが注目され、県内では院内助産院、助産師外来を始めている現状である。医療者として、二つの生命にかかわる妊娠期や分娩期、産褥期や新生児の各期の特徴を理解し、妊娠・出産の悩みや不安を解消できる知識・技術を身につける必要があると考えた。

19. 【健康生活維持に関する課題への対応技術】

【健康生活維持に関する課題への対応技術】については、人間一人ひとりの生命の尊厳や生き方に関する理解ができ、社会生活をしやすいように援助する技術を学ぶ必要があると考えた。うつ病をはじめとする精神疾患が、現代に特徴的な病であることは一般的に知られつつあり、医療者として《精神症状や状態への対応》、《地域における健康問題に対する対応》が求められており、中項目として設定し、《精神症状や状態への対応》には、＜幻覚妄想＞、＜抑うつ状態＞、＜躁状態＞、＜衝動行為＞、＜混迷状態＞、＜認知症＞、＜せん妄＞、＜不安状態＞、＜ひきこもり状態＞、＜拒否（拒食・拒薬）＞、＜攻撃的行為＞、＜強迫行為＞、＜操作・試し行為＞、＜自傷・自殺念慮＞、《地域における健康問題に対応する対応》には、＜地区診断＞、＜地域における保健計画立案・評価＞、＜学童の健康管理＞、＜労働環境のアセスメント＞、＜セルフ・ヘルプグループの育成と支援＞という小項目を具体的に理解できるよ

うに追加した。

V. 結語

新設看護学部における学生の看護実践能力育成に向けた技術項目を検討し、本学部独自の技術項目を設定した。作成にあたっては、既存文献を参考にしながら、本学部の目標である“自ら考え、主体的に行動できる地域社会に貢献する看護職者の育成”を考慮した。最終的に19項目の大項目、131の具体的項目、160の中項目となった。これらの項目を各看護専門領域の講義・演習・実習のどこで学習するかを示した。各看護専門領域においては、概論、技術論Ⅰ・Ⅱのシラバスおよび実習要綱などに明示し、卒業時には、すべての項目の知識や技術の修得を目指す。学内で学習した技術項目を確実なものにするためには、臨地実習での体験が不可欠である。そのためには、教員の意図的な関わりや臨地実習の指導者との連携が必要だと言える。

今後は、完成した技術項目の概念レベルを統一していくことや学生の活用方法、技術項目の達成を評価していくことを課題とする。学生・教員・臨地実習の指導者の3者間で共有していくことにより、個々の学生が自己の課題を理解しやすく、教員および指導者も個々の学生の援助技術の課題が理解しやすいため、具体的な支援につながると考えられる。また、個々の学生の技術到達が明確になることで、卒業前の技術習得や卒業後の新人看護師教育の指標にもなり、看護基礎教育から卒業後教育へと連動させて、継続した看護教育に役立てられると考える。

表1 看護技術項目

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄	
		講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習		
環境調整技術	療養生活環境調整																				
	温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音	○	○	○			○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△
	安全性	○	○	○			○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△
	快適性	○	○	○			○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△
	ベッドメイキング(シーツ交換を含む)																				
	一般のベッド(児)	○	○	○			△	○	○	○	○	○					△				
	手荷後のベッドの準備																				
	○	○	○	△																	
	シーツ交換																				
	△	△	△	○	△	△		△													
ドレーン類が留置されている患者																					
点滴ラインや中心静脈ラインがある患者	○	△	△	○	△		△														
活動制限がある患者	○	○	○				△	○	△	△	△										
クリンルーム入室中の患者																					
○	○	○	△																		
バイタルサインの測定																					
体温・脈拍・呼吸・血圧・意識・心音・CVP(成人・老人)	○	○	○				○	△													
体温(直腸)・脈拍(心拍)・呼吸・血圧・意識(新生児)																					
○	○	○	△																		
体温・脈拍(心拍)・呼吸・血圧・意識(乳幼児)																					
○	○	○	△																		
体温・脈拍・呼吸・血圧・意識(学童)																					
○	○	○	△																		
身体計測																					
体重・身長(成人・老人)	○	○	○				○														
○	○	○	△																		
体重・身長・頭囲・胸囲・腹囲・大泉門(新生児)																					
○	○	○	△																		
体重・身長・頭囲・胸囲(乳幼児)																					
○	○	○	△																		
体重・身長(学童)																					
○	○	○	△																		
呼吸音聴取																					
○	○	○	△																		
聴触動音聴取																					
○	○	○	△																		
腹囲測定																					
○	○	○	△																		
モニタ装着中の患者(児)の観察																					
○	△	△	△	△	△		○														
心電図モニタ																					
○	△	△	△	△	△		○														
経皮的動脈血酸素飽和度(SpO2)																					
○	△	△	△	△	△		○														
ベースマーカー装着中の観察																					
○	○	○	△	△	△		○														

○：その内容・方法について主で学習する
△：その内容・方法について学習することが望ましい

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄	
		講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習		
	配膳	○	○	○	○			△	△		○										
	食事介助																				
	臥床患者	○	○			○	○				△										
	片麻痺のある患者	○	○			○	○														
	嚥下障害がある患者	○				○	○	△	△	△	△										
	経管栄養	○				○				△	△										
	中心静脈栄養	○	△	○	△																
	誤嚥予防	○	△			○			△	△	△										
	栄養状態の査定	○		○	○	○	○	△	△	○	○								○	△	△
	水分バランスの査定	○		○	○	○	○	△	△	○	○										
	食生活支援																				
	栄養指導	○		○	○	○	○	△	△						○	○	○	△	△	△	△
	食事の工夫	○	○	△		○	○	△	△						○	○	○	△			
	家族指導		△	○	○	○	○								○	○	○	△			
	自然排尿・排便援助																				
	トイレ	○	○	○																	
	身障者トイレ	○																			
	ポータブルトイレ	○																			
	便器の使い方	○	○																		
	尿器の使い方	○	○																		
	糞便	○	○																		
	オムツ交換	○	○							○	○										
	失禁ケア	○	○							○	○										
	膀胱内留置カテーテル法	○																			
	洗腸	○	○																		
	導尿	○	○																		
	排尿困難時の援助	○	○	△																	
	ストーマ造設患者のケア	△																			

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄
		講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	
	歩行介助	○				○	○	○												
	杖歩行介助																			
	松葉杖	○						○												
	ステッキ	○						○	○											
	歩行器介助	○						○	○	○										
	移乗・移動の介助																			
	ベッド⇄車椅子	○	○	○				○	○	○							△			
	車椅子、ベッド⇄便座、ポータブル便器	○	○	○				○	○	○										
	移送																			
	車椅子	○	○	○				○	○	○										
	ストレッチャー	○	○	○						△										
	関節可動域の観察・訓練	○								○	○	○								
	虚性痙攣予防	○								○	○	○								
	適切な固定(拘束・抑制等)	△								△	○	○								
	補装具装着									○	△									
	体位変換																			
	点滴ライン・ドレーン類が留置されている患者(児)	○	△																	
	麻痺がある患者(児)	○	△																	
	痛みがある患者(児)			○																
	呼吸困難がある患者(児)			○																
	活動制限のある患者(児)	○	○	○																
	入眠・睡眠の援助	○																		
	安静の援助(指導を含む)	○																		
	下肢運動(血栓予防)			○	○	○	○													
	アクトイビティ(高齢者施設での心身の活性化)																			
	神経麻痺の観察と予防																			

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄
		訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	訓練 演習 実習	
	入浴介助	○	△					△	△		△						△			
	シャワー浴介助	○	△								△						△			
	特殊な状況にある患者(児)の入浴・シャワー浴の介助																			
	仰やドレーン類が留置されている患者(児)		△	○	○						△						△			
	麻痺がある患者(児)		△			○	○	○			△						△			
	機械浴介助		△			○														
	部分浴	○	○	○	○	○	○				△									
	手足浴	○	○	○	○	○	○				△									
	足浴	○	○	○	○	○	○				△									
	臀部浴	○	△								△									
	全身清拭	○	○	○	○	○	○				△									
	部分清拭	○	○	○	○	○	○				△									
	陰部ケア(洗浄)	○	○	○	○	○	○				△	○								
	洗髪	○	○	○	○	○	○				△									
	仰臥位	○	○	○	○	○	○				△									
	座位	○	○	○	○	○	○				△									
	口腔ケア																			
	安静(臥床)を要する患者(児)	○	○																	
	意識状態が不良な患者(児)		△	○	○	△	△				△									
	嚥下困難がある患者(児)	○	△			○	○	○	△		△									
	絶食中の患者(児)			○	○	○	○				△									
	気管切開や挿管している患者(児)		△	○	○	○	○	△			△									
	義歯の手入れ		△			○	○	○												
	整容(洗面・歯磨き・結髪・ひげ剃り・爪切り)	○	○	△	△	○	○		△	○	○									
	寝衣交換など衣生活支援																			
	ドレーン類が留置されている患者(児)	○	△			○	○				△									
	活動制限がある患者(児)	○	○	○	○	○	○				△									

清潔・衣生活援助技術

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄
		理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	
	体位保持	○	○				○													
	温巻法																			
	温枕	○	○																	△
	電気毛布・電気アソカ	○	△		○		○													
	特殊な温巻法						○													△
	熱傷予防	○	○	○	○		○													△
	冷巻法																			
	氷枕	○	○	○	△		○				○									△
	氷頭	○			△															
	氷嚢	○	○	○	△															
	特殊な冷巻法	○																		○ △
	凍傷予防	○	○	○	△		○													△
	リラクゼーション																			
	指圧						△	○												
	マッサージ	○					△	△												○ △
	補完・代替療法																			
	酸素吸入																			ターミナルケア論
	酸素マスク	○			○															
	インスピロン	○			○															
	酸素カニューラ	○			○															○ ○ △
	酸素テント	○			○															
	人工呼吸器	○			○															○ ○ △
	酸素ボンベの操作	○	○		△															○ ○ △
	在宅酸素療法 (HOT)																			○ ○ △
	吸引																			
	口腔内・鼻腔	○	○		△		○													
	気管切開口				○															△ △
	ネブライザー																			
	喉頭ネブライザー	○	○		△		△													○ △ △
	超音波ネブライザー	○	○		△		△													○ △ △

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄	
		理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習	理論	実習		
呼吸・循環を整える技術	体位ドレナージ	△		○	△																
	スクイージング	△		○	△																
	呼吸訓練																				
	腹式呼吸			○	○	△															
	口すぼめ呼吸			○	○	△															
	呼吸・吸気練習 (トリフローII・風船)			○	○	△	○														
	体温調整	○	○	○	○	△															
	包帯法	○	○	○	○	△															
	創傷処置	○	○	○	○	△															
	褥瘡予防ケア	○				△	○	○	○												
創傷管理技術	PEGを用いた経腸栄養																				
	中心静脈カテーテルの刺入部			○		△															
	気管切開口			○		△		△													
	ドレーンの種類とドレナージ方法																				
	短い開放式ドレーン			○		△															
	閉鎖式ドレーン			○		△															
	胸腔ドレーンとデイスボナーザブル低圧持続吸引器			○		△															
	頭蓋内圧ドレナージ			○		△															
	検体の採取と扱い方																				
	生体機能管理(援助)技術	採血	○	○								○	○	△							
採尿・尿検査		○					○				○	○	△								
採便・便検査		○					○														
喀痰		○					△														
検査時の援助																					
血糖測定				○	○	△	○	○	○												
スパイロメーターの使用				△		△															
胃カメラ				△		△															
気管支鏡				△		△															
腰椎穿刺				△		△															
骨髄穿刺			△		△																
腹腔穿刺			△		△																
X線撮影			△		△																
血管造影			△		△																
CT			△		△																
MRI			△		△																

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄
		講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	
	与薬方法 (説明・指導を含む)	○				○				○	△									
	経口薬 (舌下錠を含む)	○				○				○	△									
	軟膏薬	○				○														
	スプレー薬	○																		
	貼付薬	○				○														
	点眼薬	○				○														
	点鼻薬	○																		
	点耳薬	○																		
	吸入薬	○								○	△									
	座薬	○								○	△									
	皮下注射	○	○							○										
	皮内注射	○								○										
	筋肉内注射	○	○							○										
	静脈内注射	○								○										
	点滴静脈内注射の管理 (輸液ポンプも含む)	○				○	△	△		○	○	△								
	中心静脈内注射の管理	○				○		△												
	硬膜外注射の管理																			
	輸血の管理	○								△	△									
	自己注射の方法と指導									○	△									
	抗生物質を投与されている患者の観察									○	△									
	薬品管理									○	△									
	水薬・坐薬	○																		薬理学
	麻薬	○																		薬理学
	劇薬	○																		薬理学
	毒薬	○																		薬理学
	血液製剤	○																		薬理学
	向精神薬																			薬理学
	特殊薬 (抗がん剤等)	△								○	△									薬理学 ターミナルケア論

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄	
		講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習		
感染予防の技術	スタンダードプリコーション (標準予防策)	○	○		○		○				○										
	洗浄	○			△																
	消毒	○			△																
	滅菌	○			△																
	無菌操作	○	○		△																
	針刺し事故防止の対策	○	○		△																
	針刺し事故後の感染防止	○	○	△			△				△										
	医療廃棄物管理	○	○	△																	
	無菌室 (クリーンルーム) の清潔操作	○	△		△						○	△									
	隔離	○			△						○	△									
一次救命処置: BLS (Basic Life Support)																					
A : airway (頭部後屈法・下顎挙上法)																					
B : breathing (対口・対鼻人工呼吸法)																					
C : circulation (胸骨圧迫心マッサージ・ショック体位・止血法)																					
二次救命処置: ACLS (Advanced Cardiac Life Support)																					
A : airway (エアウェイ挿入・気管挿管)																					
B : breathing (アンブューバック・人工呼吸器)																					
C : circulation (胸骨圧迫心マッサージ・器具による心マッサージ)																					
D : drugs and I. V. lines (静脈確保と救急薬品使用)																					
E : electrocardiography (心電図)																					
F : fibrillation treatment (体外式徐細動)																					
G : gauge (各種パラメータの評価)																					
安全技術の管理	インシデント・アクシデント (転倒・転落・外傷予防等) に関わる対応	○					○	△		○	○										
	問題行動 (暴言・暴力・虐待等) に関わる対応							○	△												
	災害 (火災・地震等) に関わる対応								△												
	入院にあたっての患者・家族への対応		△						△	△	△										
	入院時オリエンテーション		△						△	△	△										
	退院後の生活指導		△	○	○				△	△	△										
	在宅での看護・介護指導																				
	社会資源の活用と調整																				

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄
		講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	
人の誕生・育成過程に関わる援助技術	受胎調節指導																			
	新生児家庭訪問指導																			
	妊婦計測																			
	乳房マッサージ																			
	悪露交換																			
	授乳・調乳指導																			
	離乳食の援助																			
	愛着形成への援助																			
	発達課題の取り組みへの援助																			
	障害（身体・発達障害等）を持つ子どもへの援助																			
	基本的生活習慣形成																			
	小児期の遊びの援助																			
	抱っこ																			
人の死の援助過程に関わる技術	親の役割獲得への援助																			
	死を迎える人への援助																			
	死の援助過程に関わる技術																			
	臨終を迎える人の家族への援助																			
	死後の遺体への対応																			
	診断技術																			
	妊娠期の診断技術と対応																			
	分娩期の診断技術と対応																			
	産褥期の診断技術と対応																			
	新生児の診断と観察法																			
	未熟児の診断と観察法																			
	異常新生児の診断と観察法																			
	乳房の診断と対応																			
分娩介助技術																				
正常分娩過程の介助																				
出生直後の新生児の看護																				

大項目	中項目 小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		養護		備考欄
		講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	講義	演習	
周産期に伴う援助技術	異常分娩時の補助																			
	異常出血への救急処置																			
	胎児・胎盤娩出時および後の処置																			
	保健指導（ハイリスク妊産婦の保健指導含む）																			
	記録・報告																			
	助産記録																			
	分娩監視装置解説																			
	保育器																			
	精神症状や状態への対処																			
	幻覚妄想																			
	抑うつ状態																			
	躁状態																			
	衝動行為																			
	混迷状態																			
認知症																				
せん妄																				
不安状態																				
ひきこもり状態																				
拒否（拒食・拒薬）																				
攻撃的行為																				
強迫行為																				
操作・試し行為																				
自傷・自殺念慮																				
地域における健康問題に対する対応																				
地区診断																				
地域における保健計画立案・評価																				
学童の健康管理																				
労働環境のアセスメント																				
セルフ・ヘルプグループの育成と支援																				

文 献

- 看護師等の人材確保の促進に関する法律（平成4年6月26日法律第八十六号）
- 厚生労働省（2007）：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書
- 厚生労働省（2010）：看護教育の内容と方法に関する検討会報告書（看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標(案)） 17-19
- 桜柑富美子ら（2009年）：臨地実習における技術経験の現状と課題, 鹿児島大学医学部保健学科紀要, 19, 65-70
- 三輪木君子ら（2005年）：臨地実習における＜看護技術の習得状況＞の実態（1）－学生用技術ノートから－, 静岡県立大学短期大学部研究紀要, 19, 13-25
- 文部科学省（2002）：看護学教育の在り方に関する検討会報告（大学における看護実践能力育成の充実に向けて）
- 文部科学省（2010）：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告
- 奥田（2011）：日常生活行動援助における看護師の意思決定と基本的属性との関係, 第31回日本看護科学学会学術集会講演集, 255
- 田島桂子ら（2003）：看護基礎教育における看護技術および認知領域面の教育のあり方に関する研究, 日本看護学教育学会誌, 13（2）, 81-192
- 戸田由美子ら（2010）：一看護系大学における「卒業時看護技術到達度チェックリスト」の作成報告, 高知大学看護学会誌, 4（1）, 33-42

